新旧対照表

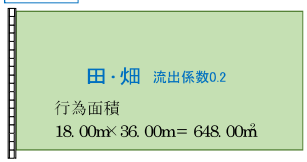
旧

6-3　調整池容量計算システムの設計例

6-3-1　設計例１「田」→「駐車場」（阻害行為面積 500～1000㎡、集水区域１、浸透施設のみ）

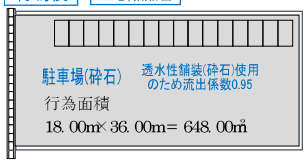
条件：市街化調整区域。実測面積 A=648.00㎡。
行為前：地目：農地。実際の土地利用：田。
行為後：地目：雑種地。工事後の用途：駐車場。
対策施設：透水性舗装（砕石）。

行為前



土地利用	流出係数	面積
田・畑	0.2	648.00㎡

行為後　土地利用計画



土地利用	流出係数	面積
舗装（不浸透材料に覆われた土地）	0.95	648.00㎡

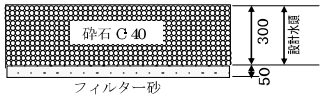
※対策施設として透水性舗装(砕石)を使用する場合は、砕石でも舗装と同等と見なし流出係数0.95を使用する。

※阻害行為面積 1000㎡未満は、一つの集水区域とみなすことができる。
この計画は、区域の雨水が全て対策施設(透水性舗装)に入る、また区域外から流入がないため、1000㎡未満の集水区域の特例を使用しなくても、集水区域は１つである。

対策施設

透水性舗装(砕石)面積
17.00m×35.50m＝603.50㎡
（施工誤差を考慮し少なめに計上）

透水性舗装(砕石)



1m2 あたり比浸透量の算定

$$Kf = 0.014 \times 0.300 + 1.287 = 1.2912 \fallingdotseq 1.291$$

全体の空隙体積の算定(砕石の体積)　C-40 の空隙率 10%

$$V = 0.300 \times 603.50 = 181.05m^3$$

集水区域１浸透施設のみ

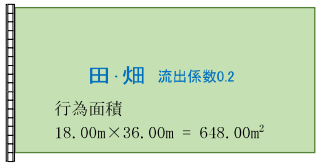
新

6-3　調整池容量計算システムの設計例

6-3-1　設計例１「田」→「駐車場」（阻害行為面積 500～1000㎡、集水区域１、浸透施設のみ）

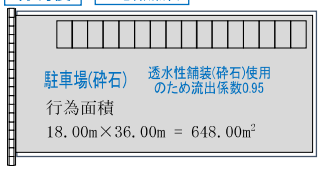
条件：市街化調整区域。実測面積 A=648.00㎡。
行為前：地目：農地。実際の土地利用：田。
行為後：地目：雑種地。工事後の用途：駐車場。
対策施設：透水性舗装（砕石）。

行為前



土地利用	流出係数	面積
田・畑	0.2	648.00㎡

行為後　土地利用計画



土地利用	流出係数	面積
舗装（不浸透材料に覆われた土地）	0.95	648.00㎡

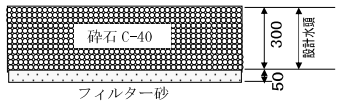
※対策施設として透水性舗装(砕石)を使用する場合は、砕石でも舗装と同等と見なし流出係数0.95を使用する。

※阻害行為面積 1000㎡未満は、一つの集水区域とみなすことができる。
この計画は、区域の雨水が全て対策施設(透水性舗装)に入る、また区域外から流入がないため、1000㎡未満の集水区域の特例を使用しなくても、集水区域は１つである。

対策施設

透水性舗装(砕石)面積
17.00m×35.50m ＝ 603.50㎡
（施工誤差を考慮し少なめに計上）

透水性舗装(砕石)



1m2 あたり比浸透量の算定

$$Kf = 0.014 \times 0.300 + 1.287 = 1.2912 \fallingdotseq 1.291$$

全体の空隙体積の算定(砕石の体積)　C-40 の空隙率 10%

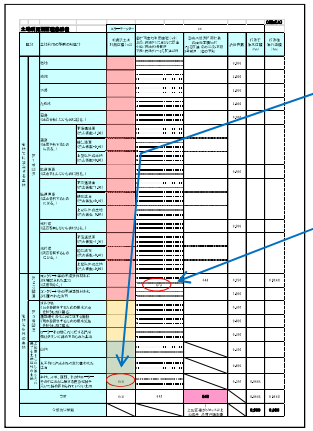
$$V = 0.300 \times 603.50 = 181.05m^3$$

集水区域１浸透施設のみ

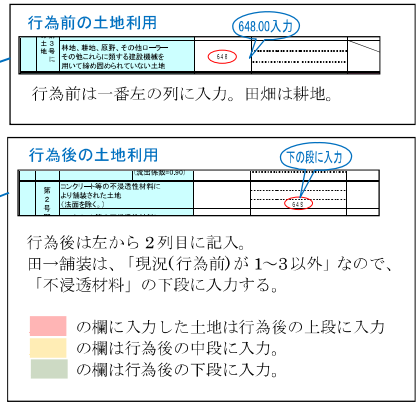
新旧対照表

旧

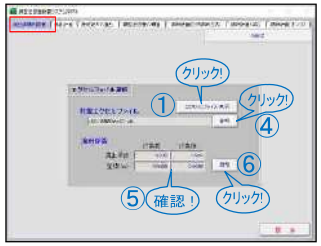
(1) HPからダウンロードした様式Aの入力



●田→舗装 648.00 ㎡を様式Aへ入力

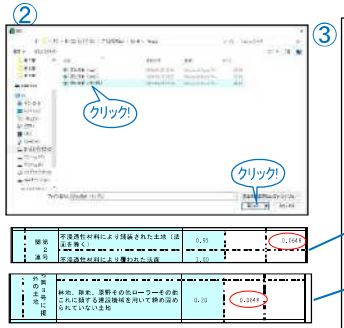


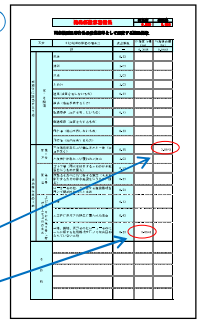
(2) システム「流出係数の設定」



●田→舗装 648.00 ㎡のシステムへの入力

① 「エクセルファイル表示」をクリック。
② 「流出係数(サンプル)」をクリック。「開く」ボタンをクリック。
③ エクセルの表に、左の列：行為前「耕地」0.0648、右の列：行為後「不浸透」0.0648 と ha で入力。名前を付けて同じ場所に保存。
④ 「参照」をクリック。先ほど作ったエクセルファイルをクリック。「開く」をクリック。
⑤ 面積が変わったのを確認。
⑥ 設計をクリック。⑦「はい」をクリック。

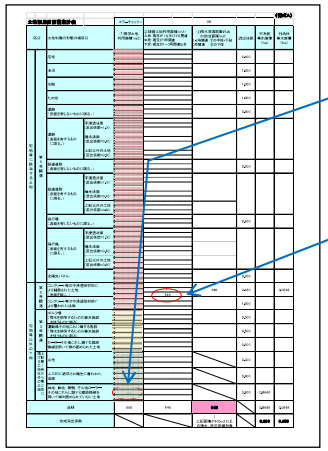




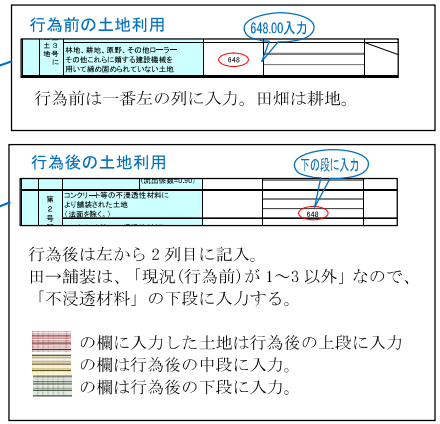
集水区域１浸透施設のみ

新

(1) 愛知県の HP からダウンロードした様式 A の入力



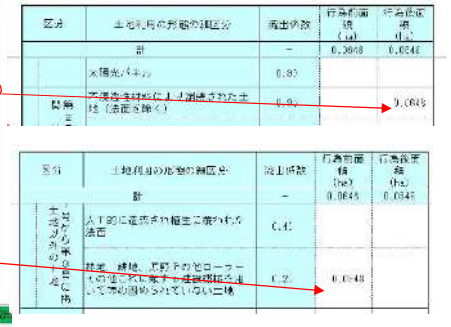
●田→舗装 648.00 ㎡を様式 A へ入力



(2) システム「流出係数算出」

●田→舗装 648.00 ㎡のシステムへの入力

①「流出係数算出」のタブを選択。
②エクセルの表に、左の列：行為前「耕地」0.0648、右の列：行為後「不浸透」0.0648 と ha で入力。
③面積が変わったのを確認。
④流出係数算出結果を確認。

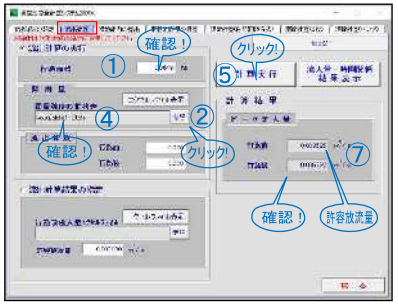


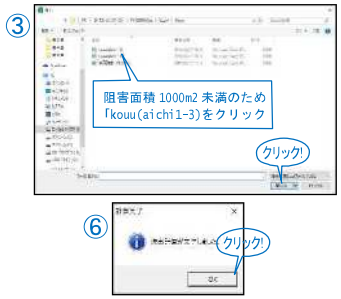
集水区域１浸透施設のみ

新旧対照表

旧

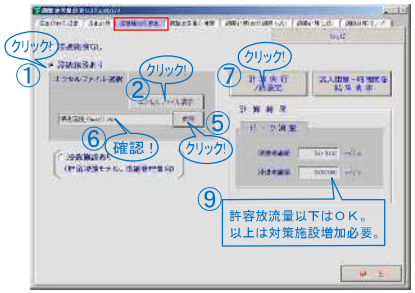
(3) システム「流出計算」　●田→舗装 648.00 ㎡の行為前後の放流量の算定。

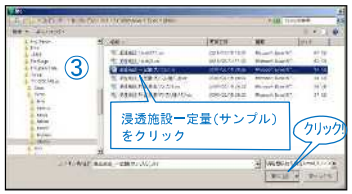


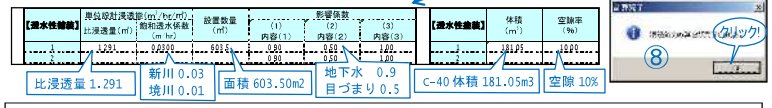


① 行為面積が合っているか確認
② 「参照」をクリック。
③ 阻害行為面積が 500～1000㎡は
「kouu(aichi 1-3)」。1000㎡以上は
「kouu(aichi 1-10)」をクリック。
「開く」をクリック。
④ 「kouu(aichi 1-3)」を確認
⑤ 「計算実行」をクリック。
⑥ 「計算完了」が出たら「OK」をクリック。
⑦ 行為前、行為後の流入量を確認。
行為前ピーク流入量が「許容放流量」。

(4) システム「浸透能力の算出」　●透水性舗装(砕石) 603.50 ㎡の低減効果の算定。







① 「浸透施設あり」をクリック。
② 「エクセルファイル表示」をクリック。
③ 「浸透施設一定量(サンプル)」をクリック。
「開く」をクリック。
④ 透水性舗装のエリアに、「比浸透量」「飽和透水係数」に 0.03 か 0.01、「舗装面積」を入力。「影響係数」に 0.9 と 0.5。右に「舗装体 C-40 の体積」「C-40 の空隙率 10.00(%)」を入力。
名前を付けて「Shinto」フォルダに保存。
⑤ 「参照」をクリック。先ほど作ったエクセルファイルをクリック。「開く」をクリック。
⑥ ファイル名を確認。
⑦ 「計算実行」をクリック。
⑧ 「計算完了」が出たら「OK」をクリック。
⑨ 浸透考慮後の数値を確認。「許容放流量」以下ならばＯＫ。**以上ならば、対策施設を増加。**

集水区域１浸透施設のみ

新

(3) システム「降雨強度」

① 「降雨強度」のタブを選択
② 阻害行為面積が 500～1000m² であるため、３年確率雨量を用いる。
ダウンロードした３年に１回の雨「愛知県３年確率雨量.xlsx」の各時間の降雨量をコピーして貼り付ける。
※「計算実行」はクリックしない。

集水区域１浸透施設のみ

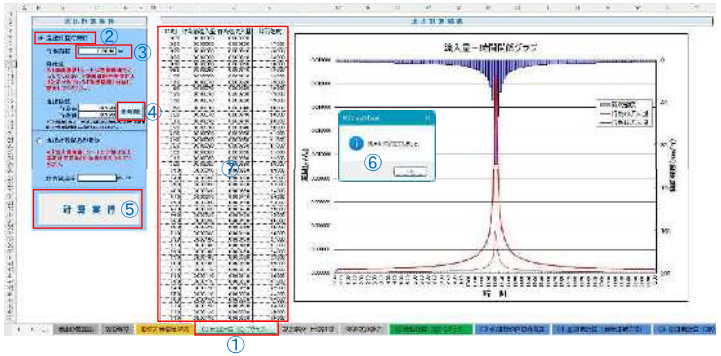
新旧対照表

旧

新

(4) システム「流出計算」

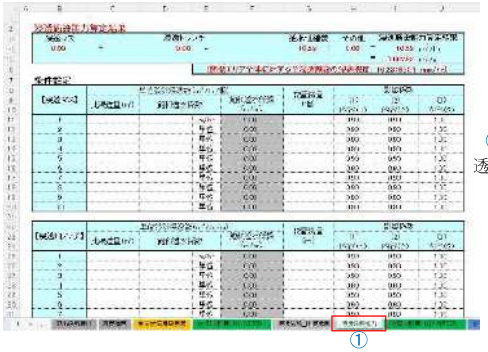
●田→舗装 648.00 ㎡の行為前後の放流量の算定。



①「01 流出計算(Q-T グラフ)」のタブを選択。	⑤　計算実行をクリック。
②　流出計算の実行に●が付いているか確認。	⑥　計算完了が出たら「OK」をクリック。
③　行為面積が入力されているか確認。	⑦　行為前、行為後の流入量を確認。
④　流出係数をクリック	行為前ピーク流入量が「許容放流量」。

(5) システム「浸透施設能力の算出」

●透水性舗装（砕石）603.50 ㎡の浸透能力の算定。



②　透水性舗装の入力欄まで画面をスクロール

②

【透水性舗装】	単位設計浸透能(m³/hr/㎡) 比浸透量(㎡)	飽和透水係数		飽和透水係数 (m/hr)	設置数量 (㎡)	影響係数 (1) 内容(1)	(2) 内容(2)	(3) 内容(3)
1	1.291	0.030	m/hr	0.03	603.5	0.90	0.50	1.00
2			単位	0.00		0.90	0.90	1.00
3			単位	0.00		0.90	0.90	1.00

新川 0.03
境川 0.01

地下水　0.90
目詰まり 0.50

【透水性舗装】1m²あたり	体積 (m³)	空隙率 (%)
1	0.30	10.00
2		

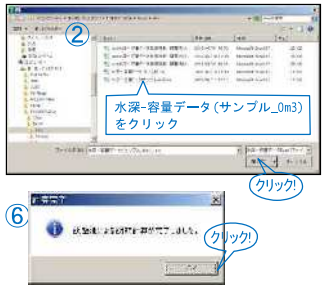
①「浸透施設能力」のタブを選択。
②　透水性舗装の表まで画面をスクロール
「比浸透量」「飽和透水係数」に 0.03 か 0.01、「舗装面積」を入力。「影響係数」に 0.9 と 0.5 を入力。
右に「舗装体 C-40 の体積」「C-40 の空隙率 10.00(%)」を入力。

集水区域 1 浸透施設のみ

新旧対照表

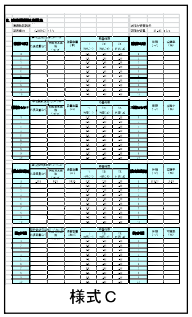
旧

(5) システム「調節計算(自然調節方式)」　●ダミーデータを入力し、様式A’様式Cを作成

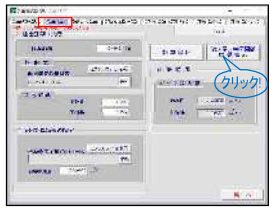


① 「参照」をクリック。
② 「水深-容量データ(サンプル_0m3)」をクリック。「開く」をクリック。
③ 放流口形状の「円」をクリック。
④ 「直径」「管底位置」が 0.000 ならばそのまま。数値が入っていれば、0.000 に修正。
⑤ 「計算実行」をクリック。
⑥ 「計算完了」が出たら「OK」をクリック。
⑦ 「総合評価」がＯＫ。「放流量評価」の「許容放流量以下」を確認
⑧ 「許可申請図書の表示」をクリック。

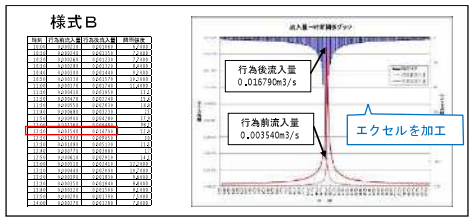
様式A’


様式C

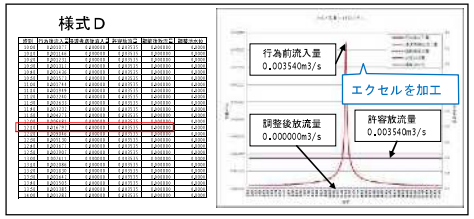
(5) システム「流出計算」と「調節計算(自然調節方式)」　●様式B、様式Dを作成



様式B



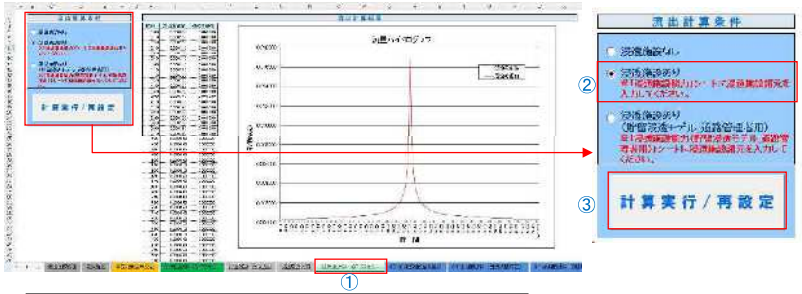
様式D



集水区域１浸透施設のみ

新

(6) システム「流出計算の実行」



① 「02 流出計算(QT-S グラフ)」のタブを選択。
② 浸透施設ありのスイッチを押下し●にする。
③ 計算実行/再設定をクリック。表とグラフが表示される。

(7) システム「調節計算(自然調節方式)」

① 「04-①調節計算（自然調節方式）」を選択。以下、入力条件を入力せず、計算実行し、様式A’と様式Cを作成。
② 「水深-容量」「放流口形状」が空欄になっていることを確認。
③ 「計算実行」をクリック
④ 「浸透施設のみ考慮後の放流量を設定しました。」が出たら「OK」をクリック。
⑤ 許可申請図書の作成を押下し、様式A’と様式Cを作成。
⑥ 様式B、様式Dを作成。

集水区域１浸透施設のみ

新旧対照表

旧

新

⑤許可申請図書の作成をクリックした後の補足説明

許可申請図書の作成をクリックすると、許可申請図書（エクセルファイル）の保存先を聞いてくるのでファイルの保存先とファイル名を指定する。

保存した許可申請図書のファイル名（エクセル）を開き、「1.行為区域の概要」のタブ≒様式Ａ’となる。　　「３．流出抑制施設諸元　（浸透施設）」のタブ≒様式Ｃとなる。

様式Ａ’

1．行為区域の概要

（※位置及び行為前後の土地利用区分のわかる平面図を添付すること）

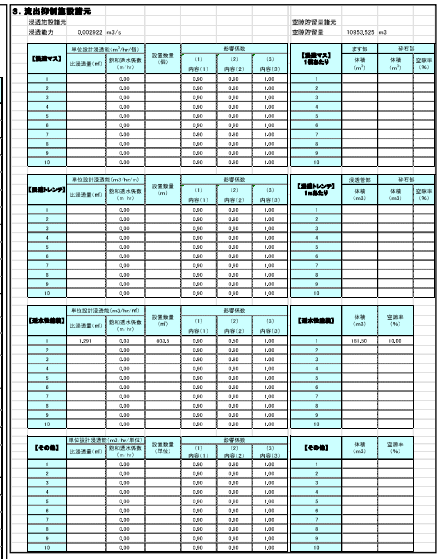
行為区域位置　住所：　○○市○○区○○町

行為面積　　0.0000（ha）

行為前後の土地利用区分

区分			土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積（ha）	行為後面積（ha）
宅地等に該当する土地	第１号関連		宅地	0.90		
			池沼	1.00		
			水路	1.00		
			ため池	1.00		
			道路（法面を有しないもの）	0.90		
			道路（法面を有するもの）			
			鉄道線路（法面を有しないもの）	0.90		
			鉄道線路（法面を有するもの）			
			飛行場（法面を有しないもの）	0.90		
			飛行場（法面を有するもの）			
			太陽光パネル	0.90		
宅地等以外の土地	第２号関連		不浸透性材料により舗装された土地（法面を除く）	0.95		0.0648
			不浸透性材料により覆われた法面	1.00		
	第３号関連		ゴルフ場（雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る）	0.50		
			運動場その他これに類する施設（雨水を排除するための排水施設を伴うものに限る）	0.80		
			ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められた土地	0.50		
	第１号関連以外の場合は主たる土地から		山地	0.30		
			人工的に造成され植生に覆われた法面	0.40		
			林地、耕地、原野その他ローラーその他これに類する建設機械を用いて締め固められていない土地	0.20	0.0648	
その他						
面積計					0.0648	0.0648
平均流出係数					0.200	0.950

様式Ｃ



3．流出抑制施設諸元

浸透型駐車場

浸透能力　0.002922 m3/s

雨水貯留施設

雨水貯留量　10953.525 m3

集水区域１浸透施設のみ

新旧対照表

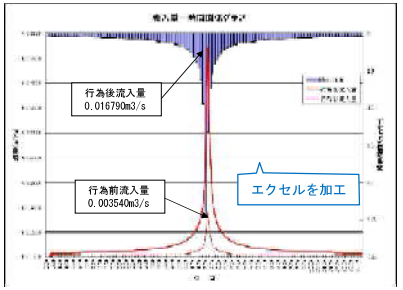
旧

新

様式Ｂの作成は、「01 流出計算（Q-T グラフ）」のタブに結果表とグラフが表示されているが、システムのエクセルファイルでは、オートシェイプ機能の使用やグラフの加工ができないので、画面キャプチャやデータコピーして、様式Ｂを作成するために別途、エクセルやワード等を用いて加工する。

様式Ｂ

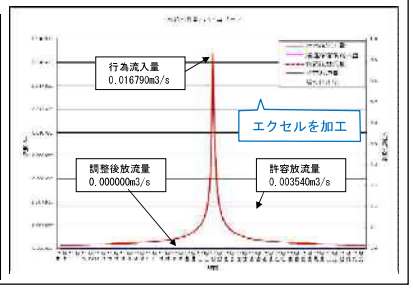
時刻	行為前流入量	行為後流入量	降雨強度
10:00	0.000240	0.001150	6.7000
10:10	0.000260	0.001230	7.2000
10:20	0.000280	0.001320	7.7000
10:30	0.000300	0.001440	8.4000
10:40	0.000330	0.001570	9.2000
10:50	0.000370	0.001740	10.2000
11:00	0.000410	0.001950	11.4000
11:10	0.000470	0.002240	13.1000
11:20	0.000550	0.002630	15.4000
11:30	0.000680	0.003230	18.9000
11:40	0.000900	0.004270	25.0000
11:50	0.001360	0.006480	37.9000
12:00	0.003540	0.016790	98.2000
12:10	0.001900	0.009050	52.9000
12:20	0.001080	0.005130	30.0000
12:30	0.000770	0.003680	21.5000
12:40	0.000610	0.002910	17.0000
12:50	0.000510	0.002410	14.1000
13:00	0.000440	0.002090	12.2000
13:10	0.000390	0.001830	10.7000
13:20	0.000350	0.001640	9.6000
13:30	0.000320	0.001500	8.8000
13:40	0.000290	0.001390	8.1000
13:50	0.000270	0.001280	7.5000
14:00	0.000250	0.001200	7.0000



様式Ｄの作成は、「04-①調節計算（自然調節方式）」のタブに結果表とグラフが表示されているので、様式Ｂと同様に別途、エクセルやワード等を用いて加工する。
※グラフは許可申請図書の作成で出力したものを使用する。

様式Ｄ

時刻	行為後流入量	調整後放流量	許容放流量	調整後放流量	調整池水位
10:00	0.001150	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
10:10	0.001230	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
10:20	0.001320	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
10:30	0.001440	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
10:40	0.001570	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
10:50	0.001740	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
11:00	0.001950	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
11:10	0.002240	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
11:20	0.002630	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
11:30	0.003230	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
11:40	0.004270	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
11:50	0.006480	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
12:00	0.016790	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
12:10	0.009050	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
12:20	0.005130	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
12:30	0.003680	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
12:40	0.002910	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
12:50	0.002410	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
13:00	0.002090	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
13:10	0.001830	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
13:20	0.001640	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
13:30	0.001500	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
13:40	0.001390	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
13:50	0.001280	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000
14:00	0.001200	0.000000	0.003540	0.000000	0.0000



集水区域１浸透施設のみ

新旧対照表

旧

(6) HPからダウンロードした様式Eの入力

「集水区域が１つ」の場合、または「集水区域は２つだが内１つが直接放流」の場合は、「様式 E」により区域全体のチェックができます。

行為区域 648.00m2
雨水浸透阻害行為面積 648.00m2

区域外流入なし

流出係数　行為前 0.200
行為後 0.950

阻害行為面積 1000m2 未満
基準降雨 1/3

行為前後のピーク流入量の計算結果を入力。

直接放流区域なし

直接放流なしのため、行為区域全体と同じ値を入力。

新川流域又は境川流域を選択

透水性舗装の設計水頭 0.30m 入力

透水性舗装の面積 603.50m2 入力

透水性舗装の体積 181.05m3 入力

C-40 の空隙率 10% 入力

調整池がないため 0m3/s 入力

調整池がないため 0m 入力

「最大放流量」と「池内最大水深」が入力されないと評価が表示される。

計算結果まとめ

対策後放流量　$Q_1 = 0.00000(m^3/s)$　≦　**許容放流量**　$Q_0 = 0.00354(m^3/s)$

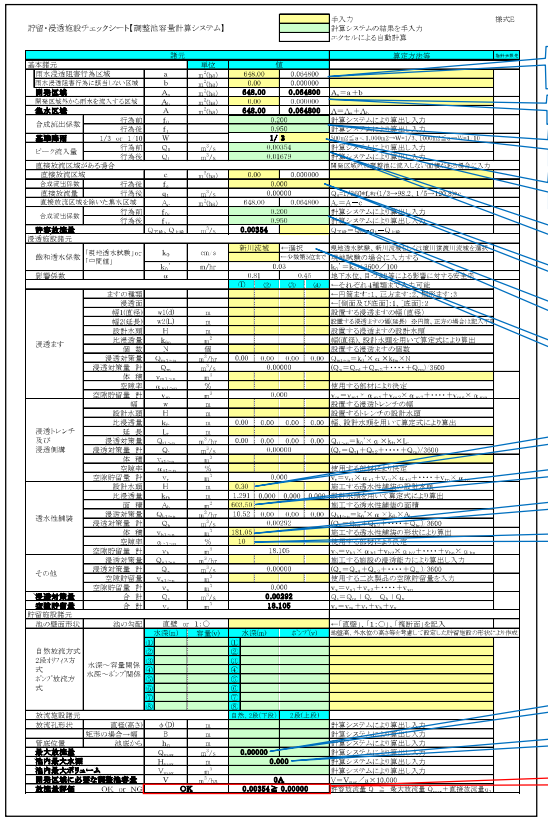
Ｏ．Ｋ

集水区域１浸透施設のみ

新

(8) HP からダウンロードした様式 E の入力

「集水区域が１つ」の場合、または「集水区域は２つだが内１つが直接放流」の場合は、「様式 E」により区域全体のチェックができる。



行為区域 648.00m2
雨水浸透阻害行為面積 648.00m2

区域外流入なし

流出係数　行為前 0.200
行為後 0.950

阻害行為面積 1000m2 未満
基準降雨 1/3

行為前後のピーク流入量の計算結果を入力。

直接放流区域なし

直接放流なしのため、行為区域全体と同じ値を入力。

新川流域又は境川流域を選択

透水性舗装の設計水頭 0.30m 入力

透水性舗装の面積 603.50m2 入力

透水性舗装の体積 181.05m3 入力

C-40 の空隙率 10% 入力

調整池がないため 0m3/s 入力

調整池がないため 0m 入力

「最大放流量」と「池内最大水深」が入力されないと評価が表示される。

計算結果まとめ

対策後放流量　$Q_1 = 0.00000(m^3/s)$　≦　**許容放流量**　$Q_0 = 0.00354(m^3/s)$

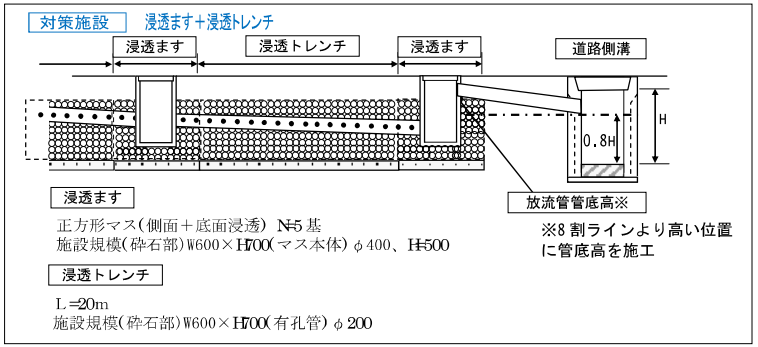
Ｏ．Ｋ

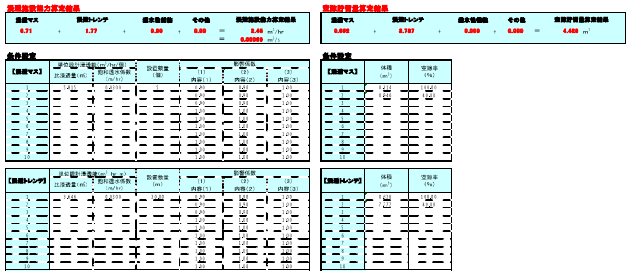
集水区域１浸透施設のみ

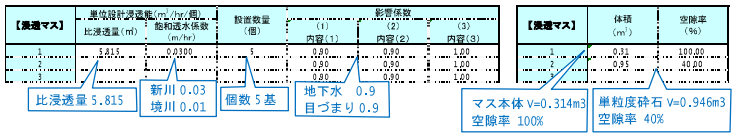
新旧対照表

旧

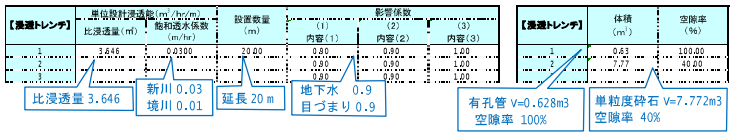
（参考１）　他の浸透施設の「浸透能力の算出」入力例







比浸透量（１基あたり）Kf=(0.120W+0.985)H² + (7.837W+0.82)H+2.858W+ 0.283 = 5.81527
空隙貯留（マス）空隙率 100%N=5 基　V= 0.2×0.2×3.14×5 = 0.314 m3
（単粒度砕石）空隙率 40%N=5 基　V= 0.6×0.6×0.7×5 - 0.314 = 0.946 m3

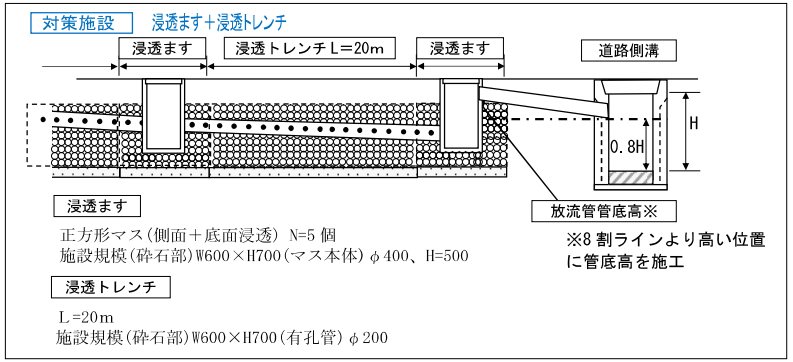


比浸透量（1mあたり）Kf=3.093H + 1.34W+ 0.677 = 3.6461
空隙貯留（有孔管）空隙率 100%L=20m　V= 0.1×0.1×3.14×20.00 = 0.628 m3
（単粒度砕石）空隙率 40%L=20m　V= 0.6×0.7×20.00 - 0.628 = 7.772 m3

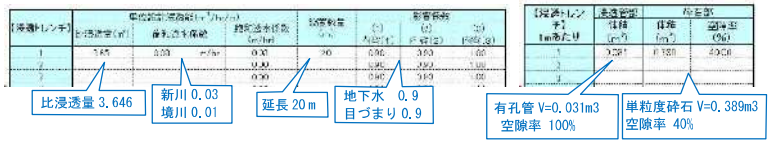
浸透施設　比浸透量

新

（参考１）　他の浸透施設の「浸透能力の算出」入力例



比浸透量（1 個あたり）Kf=(0.120W+0.985)H² + (7.837W+0.82)H+2.858W+ 0.283 = 5.81527
空隙貯留（マス）空隙率 100%（1 個あたり）　V= 0.2×0.2×3.14 = 0.126 m3
（単粒度砕石）空隙率 40%（1 個あたり）　V= 0.6×0.6×0.7 -0.126 = 0.126 m3



比浸透量（1mあたり）Kf=3.093H + 1.34W + 0.677 = 3.6461
空隙貯留（有孔管）空隙率 100%（1mあたり）　V= 0.1×0.1×3.14 = 0.031 m3
（単粒度砕石）空隙率 40%（1mあたり）　V= 0.6×0.7 -0.031 = 0.389 m3

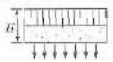
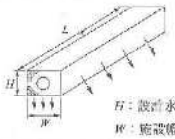
浸透施設　比浸透量

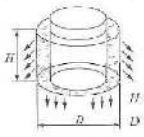
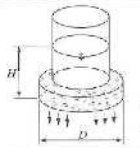
新旧対照表

旧

（参考２）　浸透施設の比浸透量の算定表

各種浸透施設の比浸透量〔Kf値(m2)〕算定式（１）

施設		透水性舗装	浸透側溝および浸透トレンチ
浸透面		底面	側面および底面
模式図		 H：設計水頭(m)	 H：設計水頭(m) W：施設幅(m)
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦1.5m	H≦1.5m
	施設規模		W≦1.5m
基本式		$Kf=aH+b$	$Kf=aH+b$
係数	a	0.014	3.093
	b	1.287	1.34W−0.677
	c	−	−
備考		比浸透量に単位面積当りの値、底面積の広い地下貯留浸透施設に適用可能	比浸透量は単位長さ当りの値
参考 影響係数		地下水 0.9・目詰まり 0.5	地下水 0.9・目詰まり 0.9

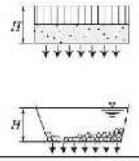
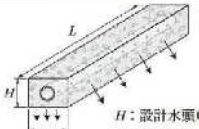
施設		円筒ます			
浸透面		側面および底面		底面	
模式図		 H：設計水頭(m) D：施設直径(m)		 H：設計水頭(m) D：施設直径(m)	
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦1.5m		H≦1.5m	
	施設規模	0.2m≦D≦1m	1m<D≦10m	0.3m≦D≦1m	1m<D≦10m
基本式		$Kf=aH^2+bH+c$	$Kf=aH+b$	$Kf=aH+b$	
係数	a	0.475D+0.945	6.244D−2.853	1.497D−0.100	2.556D−2.052
	b	6.07D+1.01	0.93D²+1.606D−0.773	1.13D²+0.638D−0.011	0.924D²+0.993D−0.087
	c	2.570D−0.188	−	−	−
参考 影響係数		地下水 0.9・目詰まり 0.9		地下水 0.9・目詰まり 0.9	

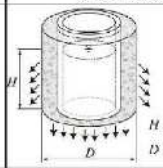
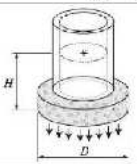
浸透施設　比浸透量

新

（参考２）　浸透施設の比浸透量の算定表（第２章　2-7-4 項　再掲）

表2-7-2　各種浸透施設の比浸透量〔Kf値(m2)〕算定式（１）

施設形態・形状		透水性舗装（浸透池）	浸透側溝および浸透トレンチ
浸透面		底面	側面および底面
模式図		 H：設計水頭(m)	 H：設計水頭(m) W：施設幅(m)
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦1.5m	H≦1.5m
	施設規模	浸透池は底面積が約 400m² 以上	W≦1.5m
基本式		$Kf=aH+b$	$Kf=aH+b$
係数	a	0.014	3.093
	b	1.287	1.34W+0.677
	c	−	−
備考		比浸透量は単位面積当りの値、底面積の広い地下貯留浸透施設に適用可能	比浸透量は単位長さ当りの値
参考 影響係数		地下水 0.9・目詰まり 0.5	地下水 0.9・目詰まり 0.9

施設形態・形状		円筒ます* および 縦型浸透管			
浸透面		側面および底面		底面	
模式図		 H：設計水頭(m) D：施設直径(m)		 H：設計水頭(m) D：施設直径(m)	
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦5.0m		H≦5.0m	
	施設規模	0.2m≦D<1m	1m≦D≦10m	0.3m≦D≦1m	1m<D≦10m
基本式		$Kf=aH^2+bH+c$ 注)	$Kf=aH+b$	$Kf=aH+b$	
係数	a	0.475D+0.945	6.244D+2.853	1.497D−0.100	2.556D−2.052
	b	6.07D+1.01	0.93D²+1.606D−0.773	1.13D²+0.638D−0.011	0.924D²+0.993D−0.087
	c	2.570D−0.188	−	−	−
参考 影響係数		地下水 0.9・目詰まり 0.9		地下水 0.9・目詰まり 0.9	

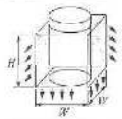
注）設計水頭が 1.5m を越える場合の比浸透量は、P2-24 の方法で算出する。
＊透水性ますおよび周辺に充填した砕石等を含む。

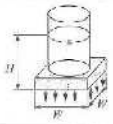
浸透施設　比浸透量

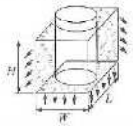
新旧対照表

旧

各種浸透施設の比浸透量〔Kf値(m2)〕算定式（２）

施設		正方形ます		
浸透面		側面および底面		
模式図		 H：設計水頭(m) W：施設幅(m)		
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦1.5m		
	施設規模	W≦1m	1m＜W≦10m	10m＜W≦80m
基本式		$K_f=aH^2+bH+c$	$K_f=aH+b$	
係数	a	0.120W+0.985	$-0.453W^2+8.289W-0.753$	0.747W+21.355
	b	7.837W+0.82	$1.458W^2+1.27W+0.362$	$1.263W^2+4.295W-7.649$
	c	2.858W−3.283	−	−
備考		地下貯留浸透施設に適用可能		

施設		正方形ます		
浸透面		底面		
模式図		 H：設計水頭(m) W：施設幅(m)		
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦1.5m		
	施設規模	W≦1m	1m＜W≦10m	10m＜W≦80m
基本式		$K_f=aH+b$		
係数	a	1.676W−0.137	$-0.204W^2+3.166W-1.936$	1.265W−15.670
	b	$1.496W^2+0.671W-0.015$	$1.345W^2-0.736W+0.251$	$1.259W^2+2.336W-8.13$
	c	−	−	−
備考		地下貯留浸透施設に適用可能		

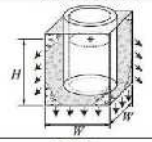
施設		矩形のます	
浸透面		側面および底面	
模式図		 H：設計水頭(m) L：施設延長(m) W：施設幅(m)	
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦1.5m	
	施設規模	L≦200m、W≦4m	
基本式		$K_f=aH+b$	
係数	a	3.297L+(1.971W+4.663)	
	b	(1.401W+0.584)L+(1.214W−0.834)	
	c	−	
備考		地下貯留浸透施設に適用可能	

参考 影響係数	上の３施設全ての影響係数　地下水 0.9・目詰まり 0.9

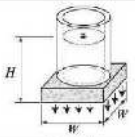
浸透施設　比浸透量

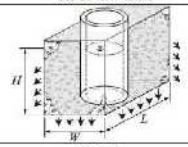
新

表2-7-2　各種浸透施設の比浸透量〔Kf値(m2)〕算定式（２）

施設形態・形状		正方形のます* および 空隙貯留浸透施設		
浸透面		側面および底面		
模式図		 H：設計水頭(m) W：施設幅(m)		
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦5.0m		
	施設規模	W≦1m	1m＜W≦10m	10m＜W≦80m
基本式		$K_f=aH^2+bH+c$ 注)	$K_f=aH+b$	
係数	a	0.120W+0.985	$-0.453W^2+8.289W-0.753$	0.747W+21.355
	b	7.837W+0.82	$1.458W^2+1.27W+0.362$	$1.263W^2+4.295W-7.649$
	c	2.858W−0.283	−	−
備考		地下貯留浸透施設に適用可能		

注）設計水頭が 1.5m を越える場合の比浸透量は、P2-24 の方法で算出する。

施設形態・形状		正方形ます*		
浸透面		底面		
模式図		 H：設計水頭(m) W：施設幅(m)		
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦5.0m		
	施設規模	W≦1m	1m＜W≦10m	10m＜W≦80m
基本式		$K_f=aH+b$		
係数	a	1.676W−0.137	$-0.204W^2+3.166W-1.936$	1.265W−15.670
	b	$1.496W^2+0.671W-0.015$	$1.345W^2+0.736W+0.251$	$1.259W^2+2.336W-8.13$
	c	−	−	−
備考		地下貯留浸透施設に適用可能		

施設形態・形状		矩形のます*および　空隙貯留浸透施設	
浸透面		側面および底面	
模式図		 H：設計水頭(m) L：施設長さ(m) W：施設幅(m) ※長辺をL、短辺をWとする	
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	H≦5.0m	
	施設規模	L≦200m、W≦5m	
基本式		$K_f=aH+b$	
係数	a	3.297L+(1.971W+4.663)	
	b	(1.401W+0.684)L−(1.214W−0.834)	
	c	−	
備考		地下貯留浸透施設に適用可能	

＊透水性ますおよび周辺に充填した砕石等を含む。

参考 影響係数	上の３施設全ての影響係数　地下水 0.9・目詰まり 0.9

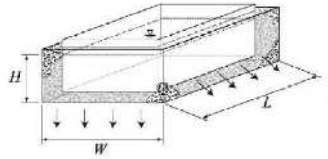
浸透施設　比浸透量

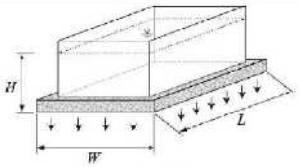
新旧対照表

旧

新

表2-7-2　各種浸透施設の比浸透量〔Kf値(m2)〕算定式（３）

施設		大型貯留浸透槽					
浸透面		側面および底面					
模式図		 H：設計水頭（m） L：長辺長さ（m） W：施設幅（m）					
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	0.5m≦H≦5m					
	施設規模	W＝5m	W＝10m	W＝20m	W＝30m	W＝40m	W＝50m
基本式		$K_f=(aH+b)L$					
係数	a	$8.83X^{-0.461}$	$7.88X^{-0.446}$	$7.06X^{-0.452}$	$6.43X^{-0.441}$	$5.97X^{-0.440}$	$5.62X^{-0.422}$
	b	7.03	14.00	27.06	39.75	52.23	64.68
	c	－	－	－	－	－	－
備考		Xは幅（W）に対する長辺長さ（L）の倍率を示す。$X=L/W$ Xの適用範囲は１～５倍とする。適用範囲を超える場合、施設を適用範囲内で分割した形で比浸透量を算定し、その合計から重複面の比浸透量を差し引く。					

施設		大型貯留浸透槽					
浸透面		底面					
模式図		 H：設計水頭（m） L：長辺長さ（m） W：施設幅（m）					
算定式の適用範囲の目安	設計水頭(H)	0.5m≦H≦5m					
	施設規模	W＝5m	W＝10m	W＝20m	W＝30m	W＝40m	W＝50m
基本式		$K_f=(aH+b)L$					
係数	a	$1.94X^{-0.328}$	$2.29X^{-0.397}$	$2.37X^{-0.388}$	$2.17X^{-0.518}$	$1.96X^{-0.554}$	$1.76X^{-0.509}$
	b	7.57	26.36	13.84	38.79	51.16	63.50
	c	－	－	－	－	－	－
備考		Xは幅（W）に対する長辺長さ（L）の倍率を示す。$X=L/W$ Xの適用範囲は１～５倍とする。適用範囲を超える場合、施設を適用範囲内で分割した形で比浸透量を算定する。					

注）施設幅（W）が上記施設規模の間にくる場合、例えばW=7.5mのようなケースでは、W=5mとW=10mにおいて実施設のXの値を用いて比浸透量の計算を行い、施設幅（W）に対し、比例配分して比浸透量（K_f）を求める。

参考 影響係数	上記施設の影響係数　地下水０．９・目詰まり０．９

浸透施設　比浸透量